

# 平成29年度京都府集中豪雨対策ソフト部会（第3回） 結果概要

1 開催日時 平成30年2月28日（水）午前10時～11時20分

2 場 所 京都府職員福利厚生センター3階第1会議室

3 出席委員 牧部会長、川池委員、戸田委員、矢守委員

## 4 内 容

「水害避難行動タイムライン作成指針（案）」について

→ 別添資料により説明

### ○ 委員からの主な意見

#### <目次>

・ひな型①～③について、使い分けが分かりやすいように、対象とする河川について記載すべき。

#### <はじめに タイムラインの必要性>

- ・タイムラインやスイッチは、地域の皆さんの参加のもとで作成し、地域で共有し、行動することが伝わる記述が望ましい。
- ・学校や福祉施設等も作成対象に含まれることを追記すべき。

#### <第2章 タイムライン案の作成>

##### (1) タイムライン作成のひな型選択

- ・「洪水浸水」という語句は、「土砂災害」との対比として違和感があるため、変更してはどうか。
- ・「付近にある河川」との表記では、どの河川を指すのか分かりにくいのではないかと。
- ・タイムラインを2種類（洪水・土砂災害）作成した場合の使い方を記載すべき（ひな型の注釈の記載を第2章にも明記する）。

##### (2) タイムラインの作成

- ・「比較的小規模の河川や天井川においては、急激に水位が上がる場合があり」とあるが、天井川だからといって急激に水位が上がる訳ではない。
- ・夜間であれば、避難所に行かずに垂直避難で良い訳ではないので、記述を検討すべき。
- ・ひな型の洪水予報、水位情報等の欄の色について、国交省等により運用されている色と揃えるべき。

#### <第4章 タイムライン導入後の取組>

##### (1) タイムラインを活用した訓練

- ・タイムライン、スイッチに合わせた訓練（危機管理WEBを確認する訓練や、地域が安全と決めた場所へ避難する訓練等）を実施することが重要である旨を記載すべき。

##### (2) タイムライン運用のふりかえりや見直し

- ・発災後や訓練でタイムラインに沿って行動した後の検証・修正を継続的に行うことの重要性を強調すべき。

#### <巻末資料>

##### (3) 京都府で発生した近年の災害事例及び観測雨量

- ・災害事例として取り上げている平成24年から26年に発生した3水害について、写真を掲載すれば分かりやすいのではないかと。
- ・各災害事例について、それぞれどのひな型を使用するケースに当たるのかを例示すべき。
- ・雨量観測所位置の画像について、危機管理WEBの画像である旨を記載すべき。また、危機管理WEBでの当該ページの表示手順を記載すべき。

- ・過去の雨量観測値を参照出来るサイト等を示すべき。

#### <全体について>

- ・行間、文字色等を検討し修正すべき。
- ・本指針を運用するに当たり、府の土木部署の支援が重要になる。
- ・本指針を活用してタイムラインが作成された際には、スイッチ設定の手順や作成されたタイムラインを共有してはどうか。

#### ○総括

- ・水害避難行動タイムライン作成指針案について、基本的には了承。委員からの意見を踏まえて内容の修正を実施し、部会長に確認を実施する。
- ・「平成29年度京都府集中豪雨対策ソフト部会」は、今回を以て終了とする。